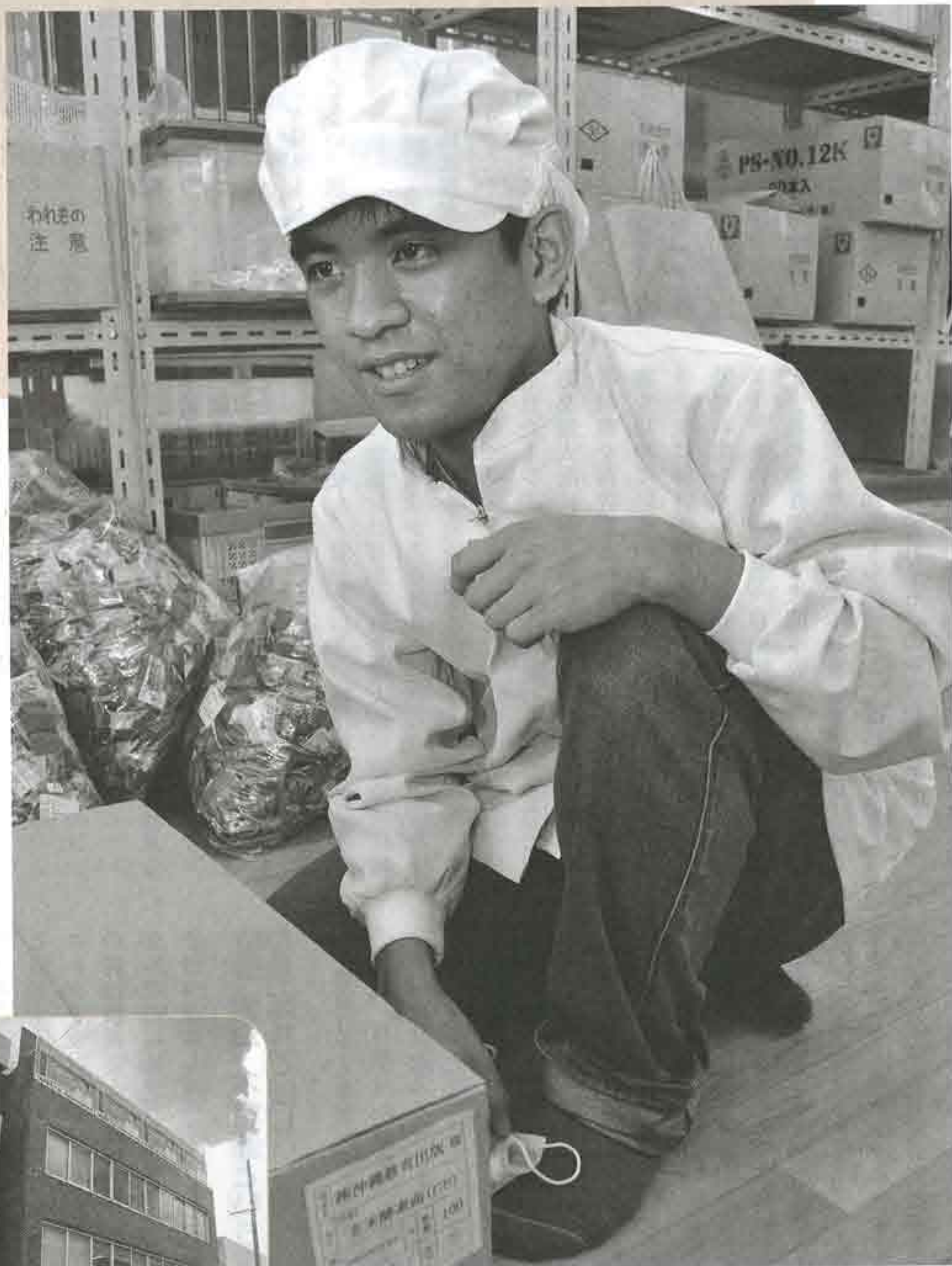


# 全員主役。 1人ひとりが輝く会社に

—株式会社沖縄教育出版—



配送センター

株式会社沖縄教育出版

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志1-2-24  
TEL 098-866-4779 FAX 098-867-6677  
URL <http://www.cha-genki.co.jp>

## WORKSHOP REPORT

### 「がんを体験 「お役立ちの経営」へ

沖縄県那覇市のメインストリート、国際通りのほぼ中央に「株式会社沖縄教育出版」がある。ビルの5階と6階が「沖縄自然館」の名で展開する健康食品の「チャーげんき事業部」と化粧品部の「真粧品事業部」のオフィスだ。

「メンタル面がいちばん大事」という社長の川畑保夫さんは、写真やホームページで拝見するよりもさらにお元氣そうで、生き生きとしたエネルギーを感じさせる。

川畑さんは1977年に「沖縄教育出版」を創業、出版事業をスタートさせた。

「沖縄は本土と違いますから、最初に買っていただいたお客さんを大事にして、植物図鑑の次は海、歴史……などと出版していきました。当時も社の理念は掲げていたのですが、実際は儲けたいとか会社を大きくしたいとか、理念とかけ離れていたと思います。出版の流通革命を考えて、次に鹿児島教育出版を作ったのですが、そのうちにストレスから「腎臓がん」になりました」と川畑さんは言う。

国立がんセンターに入院。がんの告知を受け止め、何をやるかではなく、何の



川畑保夫社長

ためにやるかを考えた。

「生きていくことには限りがある。生命体は宇宙からの借り物で必ず土に帰るが、命は受け継いでいくもの。沖縄の強みは長寿世界一です。自分のがん体験を通して、お役立ちの経営をしたいと健康食品の事業部を立ち上げました。さらに肌と心と環境にやさしい化粧品を作りた」と真粧品事業部をスタートしました。

94年に立ち上げた「沖縄自然館」では、沖縄のウコン、玄米酵素、もろみ酢などを原料にした健康食品と、自然の素材を生かした化粧品を扱っている。従業員は151名。自己資本比率95%超。年間経常利益は3〜4億円と、事業は順調に発展してきた。

企業理念について、川畑さんは「地球上に住むすべての人々が健康で平和に暮らせる社会をつくるため、みんなで力を合わせて、働きがいのある楽しい職場環境を創り、お役立ちの喜びを実践するこ

と。五徳の中で特に仁を大切にしています。文化や教育などのCSRに力を入れ、地域のコンサートやシンポジウムにもボランティアで協力しています」と語る。社内ではお互いをファーストネームで呼ぶ。川畑保夫社長は「保夫さん」。呼び方が定着するまで練習をしたそう。 「労使は対等な関係、パートナーです。パートと正社員の枠組みを超えて、「共に学び、共に育ち、共に働き、共に生きる」社会の実現を目指しています。正しいことを正しく行えば、正しい結果が出ます。人間尊重の理念で経営すれば、必ず結果は出るはずですよ」

### 「障害者はパートナー 多様性のある企業は強い

川畑さんが中学1年生のとき、カリエス（骨の慢性炎症）を患っていた年上の同級生と仲よしだった。障害児教育に長年携わった鹿児島大学の校長先生との接点があった。しかし障害者雇用の直接の動機は、講演に感銘を受けたことだと川畑さんは言う。

「一番のきっかけは、2000年2月にオムロンの立石一真会長の講演を聞いて感動したことです。その年の10月には大分の別府太陽の家に行つて、ホンダ太



まずは、オリジナルのワッショイ体操、ハッピー体操で朝礼が始まる

陽社長の鈴木さんから、「心身に障害があっても仕事に障害はない。税金の消費から納税者に」という話を聞き、私も障害者を雇用しようと思いました」  
01年に軽度と中・重度の養護学校に出向き、2人と1人を採用。大学卒で同期入社した2人が面倒を見ることにした。川畑さんは「障害者はパートナー、対等な関係」と考えた。

「私という存在は世界でただ1人。違いを認め、1人ひとりの天分を生かすと、どんな人も可能指数は200持っている。能力とは、誰でもできることをやり続けること。知的障害者は一度やり始めるとコツコツとやりぬき、私たちのほうが逆に3日坊主という体内時計を持っている。彼らは、今を一生懸命に生きています。10年偉大なり、20年恐るべしです」  
1期生を雇用してからもまもなく10年。1人が世話人、1人がサブ世話人として、仕事をリードできるまでになった。その変化は、川畑さんも当初予想していなかったという。

「最初は、自分の名前を言った後、言葉が出てきませんでしたが、今は受け答えと気配りもできるようになり、戦力となっています。当時を思うと信じられないですね。人間の能力は、いかにスイッチが入っているかどうかです。1人ひとりがその気になることが一番大切だと思います」

待遇は社員で、給料は13〜14万円。プラス障害者年金が約7万円。一家の大黒柱になっている人も多い。毎月1日は、ネクタイを締めて出勤する。

「その姿を見れば、親もどんなにうれしいか」と川畑さん。

「働き始めてしばらく経つと、お母さんたちがおしゃべりになりました。このままではいけないと考えて、通帳は会社、印鑑は親で、毎月3万円ずつ財形貯蓄をしています。親や先生、寮母さんと呼んで感謝の夕べをしています。彼らが成長していくと、親も成長していますね」  
「一流と付き合うと一流になる」が川畑さんの持論だ。

「どんな勉強会も、県外の企業視察も一緒。彼らはわからないからと分けないうで、同じようにチャンスを与える。朝礼のファシリテーター（司会者）も一緒です。そうすると成長します。社会は多様性がありますが、企業も多様性があったほうが強いし、楽しい。彼らがいるおかげで、毎日ドラマと感動があります」  
いま沖縄教育出版では、知的障害者9



知的障害者9名、聴覚障害者1名が働く沖縄教育出版

人と聴覚障害者1人が働いている。

### 障害者がリーダーに 後輩を自ら育成できる組織に

総務部長の長嶺さやかさんの案内で、オフィスから10分ほどの、沖縄都市モノレール（ゆいレール）が走る久茂地川沿いの「配送センター」を訪ねる。2階は健康食品の製作と配送で6人、1階は化粧品製作と配送で2人の知的障害者の人たちが働く。

企業の名を有名にしたのが「日本一楽しくて、長い朝礼」だ。月金は合同で、火水木はオフィスごとにその朝礼は行われる。訪れたのは木曜日。朝9時、障害のない方も含めて十数人の朝礼が始まった。

ファシリテーターは、いつもは総務で仕事をしていて、「げんき笑顔隊長」を任命されている入社3年目の知念政臣さん。「おはようございます」と手話を交えてあいさつ。2人1組のハッピー体操などの後、今年4月に入社した仲里治樹さんのリードで、朝の唱和。「〜私たちはみんなで力を合わせて、「人と人、人と自然、人と食の3つの健康のホームドクター」として、お得意様に生きる希望を届けていきます〜」

続いて今月の標語。全員で気合を入れて作業が始まる。それぞれの手際がいい。「おはようございます」と私たちにあいさつをしてくれた謝花喜和さんは、印刷物の折り機のスペシャリスト。

朝の唱和を担当した仲里さんは、「いろんな仕事をできるようにになりました。玄米酵素の箱詰めは、重いので大変です。仕事は楽しい。みんなと仲良くしています。ずっと働き続けたい」と笑顔。

障害者雇用の1期生のうちの1人、上原信弥さんは入社9年目で、2年前に製作チームの世話人（リーダー）になった。

「商品の製造がメインですが、配送が多いときは配送に回ります。注



総務で働く知念政臣さん。「げんき笑顔隊長」として朝礼を進行する

特別支援学校や作業所などからインターンシップ（職場実習）を受け入れている。その成長を見て、「環境は大事です。周囲の影響を受けて、集中できなかった子が黙々と仕事をできるようになり、先生がびっくりされています。2週

意していることは、商品にバーコードがきちんと張られているかどうかの確認です。みんながスムーズに動くので助かっています。みんなには手を早く、スピードを出してほしいと頼んでいます」と上原さんは自覚十分。会社紹介のパンフレットにも登場する上原さんは「沖縄教育出版は、明るくて元気があふれる、家族みたいな会社。今は自分の役割で精一杯です。きちんとできるようにしたら、次のことを考えて、ずっと働き続けていきたいです」と言う。

「（上原）信弥さんは、後輩を育てるためにはどうしたらいいかを考えています。彼をお手本に、次は自分が世話人になるのだという気持ちで、みんな頑張っています」と長嶺さん。

360円、430円など細かい価格のお弁当の取りまとめをしていた饒平名

（よへな）達哉さんも1期生。今年4月からサブ世話人になった。配送センターの世話人（事業部長）の川畑史（よしふみ）さんは、「彼はすべての製作ができるので、製作の指導は任せておけば大丈夫です。サブになって、朝早く出勤したりと自覚が出てきた」と仕事ぶりを認める。

「仕事は慣れました。今の仕事が好きです」という1階で化粧品の製作と配送を担当する入社2年目の伊東江梨花さんが、クレンジング水のバーコードシールの印刷を頼みにきた。上原さんが機械を操作して、シールを打ち出す。

川畑史さんは社長の次男。「私は何もしていないんですよ」と言いつつ、さりげなく気を配り、定期的に面談も行っている。

「些細な変化を見つけないことが大事だと思います。仕事の面で注意することはあまりないのですが、コミュニケーションに気をつけています。障害を持っているからとは意識していません。社員ですから同じようにしかりますし、同じように接しています」

折り箱を組み立てる  
謝花善和さん



昼食の弁当の係で注文を  
まとめる饒平名達哉さん。  
サブリーダーとしても活  
躍している



入社して9年目、チーム  
リーダーの上原信弥さん



伊東江梨花さんのシール印刷を手伝う上原さん

間経つと顔の表情とかが見違えるよう  
になりますね」と旨史さん。

知的障害者たちは自主的に朝6時半  
前に出勤。周辺道路の清掃も行って  
いる。旨史さんは彼らの将来について  
「それぞれの習熟度に合わせて仕事を  
しています。常に挑戦をさせて、将来  
的には製作から配送へ入ってもらえ  
ばと考えています。簡単なメール便の  
配送などではできる人もいますが、配  
送は商品の組み合わせが複雑ですので、応  
用することが課題として残っています。  
彼らの中で後輩を育成する、また成長で  
きる組織に持っていきたいと思います」と  
言う。

### 小さな会社でも 社会を変える力はある

社長の川畑さんの会社経営への思いは  
熱い。

「地域の暮らしを守るには、雇用づく  
り、人づくりが必要です。その土地の人  
がその土地で暮らせる社会がいい社会で  
す。世の中の真の目的と一致しているな  
らば、どんな小さな会社でも社会を変え  
る力を持っている。そのくらいの誇りと  
気概を持って、経営していきたいと思  
います。未来を担う人たちをしっかり採  
用して育てていき、グループ企業をたく  
さんつくっていききたいですね」

### やさしさと思いやりの 企業文化がつけられた

望を届けられるか。与え尽くして、慈愛  
の種をまく。それが私たちの会社が持  
っている独特なものではないかと思  
います」

1日1人1提案は、知的障害の人たち  
も一緒。川畑さんのもとに提案が届く。  
「ABCもわからなかったのに、パソ  
コンをやりたいと言いついて、仕事を終  
わった後に毎日続けて、7割の人はパソ  
コンから提案を送ってきますよ。また社  
員全員の『今日ノート』があります。何  
時から何時まで何をやるという1日の  
目標と感想を毎日書いて、金曜日に提出  
します。私や役員がコメントを書いてい  
るので、全員の名前がフルネームでわか  
ります」

上原さんは「全員の入社年月日と顔写



化粧品品の製作と配送を担当する  
伊東江梨花さん

「知的障害者は、本気で手抜き  
をしません。直球を投げます。彼  
らが今日を一生懸命生きているこ  
とがよい影響を与えています。今  
までは、品質と効率と規模を追い  
かければ会社はうまくいきまし



配送センターの責任者、川畑旨史事業部長

グループ企業として10年に「チャー  
ンキ本舗」を設立。一流のパティシエを  
招き、紅芋生ケーキをつくった。

「基本的には工場や自社ビルは持たず  
に、人にお金をかけたいですね。最大の  
企業を目指すのではなく、最良の企業を  
目指したい。人が成長した分だけ会社が  
成長すればいいと思っています」

「日本一楽しく、長い」と有名になっ  
た朝礼は、全国の企業などから見学者が  
くることでだんだんと磨かれてきたと、  
川畑さんは言う。

「仕事は、短い時間で自発的にチ  
ームワークよく集中したほうが成果は上  
がるものです。朝礼はスイッチを入れる、  
みんなが情報を共有する場です。また社員  
が弱みを話せる場になっています。み  
んな悩みを抱えている、みんなが不完  
全ですから、人生劇場と呼んでいます。不  
完全な者同士が理想を目指して少しも  
成長していこうと考えています」

真をボードにしたい」と提案。採用され  
たボードがオフィスに飾られている。

川畑さんは、「彼らだからできないと  
いう発想はありません。できないのでは  
なくて、挑戦しないだけです。常に挑  
戦をさせていく。入社当初、話が全然か  
み合わなかった自閉の人は、今は起承結  
の話ができ、1つの仕事が終わった後は  
違う仕事をしています」と言う。

上原さんはまた、おばあちゃんの家に  
家族を連れて行きたいと運転免許に挑  
戦。学科試験は、仮免許は9回、本免許  
は17回も受験した。

「職員が毎日面倒を見ていたのですが、  
翌日の本免許の試験で同じ問題が出て合  
格。みんなでバンザイしました」と川畑  
さんはうれしそうだ。

紹介しきれないほどの川畑さんのさま  
ざまな「語録」には、知的障害者と心が  
通じると思えるものがある。「感じてい  
ることは本音だから、自分に正直になっ  
て、ホントに感じていることを相  
手に伝え、相手の心を揺さぶるこ  
とからスタートしよう」と話すこ  
ともその1つ。

遅刻は許されない。仕事をする心構え  
ができていないから、その日は休んで、  
また明日がんばりなさいとなる。

「美しい経営を目指していますが、や  
さしさと、思いやり、楽しさだけでは  
ない、その裏には厳しさと、たくましさ、強さが  
なければなりません。I am OK! Y  
ou are OK! We are OK! が  
社憲です。うちはノルマも年間の売り上  
げ目標もありません。数字でプレッシャ  
ーをかけることはないのですが、お役立  
ち目標は毎月あります」

定年は、働く意欲がなくなったとき。  
69歳の人5人もいます。銀行や大学を定  
年退職して再就職した60代の人たちが一  
番活躍しているそうだ。

「仕事は自分で自分を管理をします。  
マニュアルは自分で作りますから、考え  
ることが仕事です。その習慣をつけるた  
めに、こうやったら会社ももっとよくな  
ると1人が毎日127字で提案します。  
経営者は24時間考えているわけではな  
いから、会社を良くするために全員で考える。  
それが習慣になると楽しいんです」

魔法の習慣〇×チェックシートもある。  
「自分の立てた目標を毎日チェックす  
る。今までできなかったことができるよ  
うになることが成長です。人間的に成長  
すれば、結果的に数字や成果がついてき  
ます。家族以上の人間関係の中でお得意  
様を大事にして、どうやったら生きる希



上原信弥さんが提案した  
全社員の顔写真入りボード

た。これからは人間関係の中でいかに  
役に立つか。公益企業でない人は応援  
しないと思います。いい社会をつくら  
ないといけないこと、みんなとつなが  
っていくと思っています。私たちがうれ  
しいのは、朝礼研修にいられて障害者雇  
用を始めた企業が増えていることです」  
川畑さんは、1つの願いを話してくれ  
た。

「彼らがいることによって、やさしさと、  
思いやりの企業文化、土壌がつくられて  
います。見習うことはいっぱいあります。  
障害者を30〜50人に増やして、彼らだけ  
で経営ができるようなことに挑戦したい  
ですね。彼らが増えてくれば、その中か  
ら役員をつくっても構わないわけです  
から」  
川畑さんのその願いが実現したら、ぜ  
ひ再訪したいと思う取材だった。